

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500132		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔が一番に入居者様に接するように努力している。精神的な癒しを提供できればとドッグセラピーに取り組んでいる。調理支援や、清掃等入居者様ができることを無理なく提供していくことを心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4770500132-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、理念の笑顔をもとに、利用者の残存機能を活かしながら生活しやすい環境を整え、もやしの下ごしらえや人參等の皮むき、テーブル拭き、下膳等を支援している。利用者の興味あるものや出来ること、以前やっていたこと等を把握し、介護するのではなく、本人が出来ない部分を支える支援を基本とする等、理念に沿った支援を日々のケアに活かしている。事業所と地域のつきあいについては、地域の数か所の自治会まつりに参加したり、運営推進会議に5か所の自治会代表が参加し交流している。地域包括支援センター主催のソーマン流しに参加したり、専門学校の学生が実習で来訪し交流している。職員が犬セラピーをしており、その仲間が定期的に事業所へ来訪し、利用者と交流したり、利用者もセラピー犬と一緒に法人施設へ出向き交流している。利用者の日頃の発言等から意向を把握し、併設施設に毎週来訪の移動パン屋を本事業所に立ち寄ってもらい、パン好きな利用者が自ら買い物が出来る支援をしている。本事業所は高台に位置していることから、海に近いグループホーム等の災害時避難場所としての受入の相談もあり、協力できる体制を整えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年10月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口などに張り出し、理念を共有している。	理念の共有と実践については、理念の笑顔をモットーに、利用者の残存機能を活かしながら生活しやすい環境を整え、一緒に調理に参加してもらったりしている。職員は、利用者の興味あるものや出来ること、以前やっていたこと等を把握し、介護するのではなく、本人が出来ない部分を支える支援を基本とする等、理念に沿った支援を日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者様と地域との交流はなかなか出来ない状況。ドッグセラピーを通して他福祉事業所との交流は出来ている。	事業所と地域のつきあいについては、地域の数か所の自治会まつりに参加したり、運営推進会議に5か所の自治会代表が参加し交流している。地域包括支援センター主催のソーメン流しに参加したり、専門学校で学生が実習で来訪し交流している。職員が犬セラピーをしており、その仲間が定期的に事業所へ来訪し、利用者や交流したり、利用者もセラピー犬と一緒に法人施設へ出向き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト取得し、サポーター養成講座など発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、情報共有を行っている。	運営推進会議を活かした取り組みについては、1階の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回開催されている。会議は、利用者状況や事故報告等が行われ、意見や情報交換をしている。参加者は、利用者や家族、行政、地域包括支援センター、自治会、社会福祉協議会、同業知見者となっているが、利用者家族や知見者の出席が少ないことから、参加できる工夫を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議はもちろん市GH連絡会や介護支援専門員から市介護長寿課への問合せなどを行っている。	市町村との連携については、2か月に1回定期的に運営推進会議や市グループホーム連絡会が開催され、行政担当課長も参加し、行政情報や事例検討等が行われ協力関係が構築されている。本グループホームは高台に位置していることから、海に近いグループホーム等の災害時避難場所としての受入の相談もあり、協力できる体制を整えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本身体抑制廃止に取り組んでいる。勉強会を通して職員へ周知し、理解を得ている。	身体拘束をしないケアの実践については、年間研修計画に位置づけし、研修会やミーティングで勉強会を行っている。パーキンソン症状で体調不良時にベッド4点柵を使用する利用者があるが、この頃は体調も良いので使用していない。身体拘束に関する同意書も取り、記録もされている。二重の玄関ドアの1つは自動開閉で、もう1つは閉めると設備上自動的にロックされるため、日中は空けたまま自由に入出入りできるようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアミーティングや園内勉強会等で知識を得ている。	虐待の防止の徹底については、勉強会を実施し、職員は虐待や不適切なケアについても理解しており、日々の支援においてマンネリにならないよう意識している。夜は消灯時間を設けず、例えば、夜10時頃居間で過ごされている利用者「10時ですがどうしますか」と声かけしたり、なれあいにならないよう、敬意を持って思いやりのある言葉かけや言動に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で内容確認行っているが、現在入居者様への必要性がないため実践は生かされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はもちろん、契約前のホーム内見学でも説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、家族からの要望はミーティングや家族会にて報告周知し、運営に反映している。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、利用者の日頃の発言等から把握したり、面会時や家族会等で話を聞く機会としている。利用者の「買い物に行きたい」の意向をもとに、併設施設に毎週来訪の移動パン屋を事業所にも立ち寄ってもらい、パン好きな利用者が自ら買い物ができる支援をしている。家族から帰宅時の対応方法の相談等もあり、本人の状況等を説明し対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見などもミーティングで話し合い業務改善に努めている。	運営に関する職員意見の反映については、毎月のミーティングや個別面談等で職員の意向を聞く機会としている。利用者の自立支援や生活の質の向上、安心・安全等について職員間で検討し、毎食前のパタカラ体操や夕食を17時から17時30分に変更する等、運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の状況を管理者にて把握し、夜勤、日勤などの回数や希望休等を設定配慮行っている。	就業環境の整備については、職員の勤務体制として、週休や年休等、職員の希望を先に聞いて調整している。例えば夜勤を少なくし、日勤中心の勤務や夜勤の回数、定年後の再雇用等、個々の職員状況に配慮し対応することで継続支援に努めている。事業所は、就業規則のもと、介護職員処遇改善の導入や夜勤者の健康診断を2回実施する等、職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会やメンタルヘルス研修等内容を各自のスキルに応じて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ運営推進会議への声かけ、参加行いお互いに情報共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分に本人・家族の意向を確認している。その都度要望確認行っている		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を十分に確認できるように配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開催し、十分に話を聴き、サービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理支援やドッグセラピー会を通して入居者様の役割等を提供し、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、職員から声かけし、コミュニケーションを図り、情報を共有している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や会合等家族協力の上行っている入居者様もいる。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者のこれまでの職歴(自営業や公務員等)や生活歴等、アセスメントし把握している。元職場同僚が来所したり、友人が年1, 2回の訪問で関係が継続されている利用者もいる。地域の自治会祭りに参加することで、知人と出会う機会となり、会話し交流している。家族の協力を得て、美容院へ出かけたり、旧盆や正月等、自宅へ外出する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様お互いに声かけし、手伝いをしてくれる入居者もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なかなか実行はないが、退去時や看取り後家族へ声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランをもとに本人へ聞き取りし、できる限り思いに寄り添える体制をとっている。	思いや意向の把握については、日々のケアや本人の発語等で察したり、担当者や計画作成担当者が聞き取りし、意向把握に努めている。編み物等が好きな利用者、皿洗いや食事づくりに参加する利用者等、職員は利用者の意向をもとに、役割をもてる支援を行っている。「お家に行く」といって、玄関から出て行く利用者や中庭を散歩する等、その都度対応し、利用者の気持ちを受け止めた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族などにその都度コミュニケーションの中で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、職員間の情報共有を行い本人の現状を把握するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に本人・家族の意向を確認し、ケアミーティングなどで意見交換を行っている。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、毎月のミーティングで利用者全員の状況を話し合い確認し、その結果を計画作成担当者が記録している。3か月毎にモニタリングし、介護計画を作成している。「仕事が見たい」等の意向が記載された個別の計画もある。事故等があった場合は、その日に会議を行い、介護計画に反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有を行い記録に残し、必要に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に対応できるように情報収集を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか地域資源を活かせていない状況ではあるが、要望に添えるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者様は個人個人主治医を持って頂き、ホーム看護師からのホーム内の情報をその都度主治医に発信している。	かかりつけ医の受診支援については、基本的には利用者全員がかかりつけ医を継続し、看取り支援の場合は訪問診療等に変更し支援することもある。通院は、家族同行となっているが、家族が高齢で送迎が困難な場合等、必要に応じて職員が送迎をしている。受診情報は家族や医療機関と口頭や書面でやり取りし、医療情報は報告書に記録し、申し送りを通して職員間で共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常的なこと、医療的なこともホーム看護師へ報告し、常に情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等面会を行い主治医、看護師などから情報を頂き、対応行っている。急変時などの搬送病院をあらかじめ家族にも発信している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明を行うことと、入居途中でも家族会等を通して再確認を行っている。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、事業所の方針については、入居時や更新時に利用者と家族へ説明し同意を得ている。訪問診療や訪問看護との連携のもと、これまで看取りを2回行っている。キーパーソンが看護師であったことも幸いし、看取りを通し職員も学ぶことが出来、家族が安心して関わられるよう、家族宿泊において、湯茶の提供や声かけ等、家族への支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師指導のもと勉強会を開催している。喀痰吸引研修等へも参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の消防訓練を行っている。津波などの災害の場合、市内グループホームで話し合いを行い、お互いに受け入れ出来る環境づくりを進めている。	災害対策については、「災害時対応マニュアル」が整備され、隣接する法人施設や階下の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、年2回夜間想定防災訓練を実施している。災害時には地域のグループホーム利用者の受け入れ先となっている。火災予防のため、台所はガスからIHに変えている。利用者全員の避難訓練の実施や家具等の固定も期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に配慮出来る様に工夫を行っている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、利用者の気持ちを受けとめ、丁寧な言葉かけを努めている。個人情報事務室にて管理し、職員も守秘義務について理解している。利用者用トイレはカーテンのみで仕切られている。共用の居間の壁は、ガラス張りとなっており、道行く外部の第三者からの視線が気がかりな状況となっている。利用者のプライバシー保護の観点からも検討及び工夫が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者本位を基本に、何を行うにも声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめ決めているパタカラ体操やラジオ体操を除き自由に過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等家族と買い物に出かけ本人の希望の衣類、色や形等を購入したり、散髪の際どのようなスタイルにするか本人に確認し支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは管理栄養士からのメニューを使用している。調理に関しては入居者様と一緒に準備を行っている。片付けに関しても下膳を職員と一緒にしている。	食事を楽しむことのできる支援については、法人の管理栄養士が作成した献立をもとに3食、職員が調理している。利用者は、もやしの下ごしらえや人参等の皮むき、テーブル拭き、下膳等を行なっている。食事の前には、口腔体操を行い食べる楽しみとしている。利用者の好きな刺身は冬場の月初めに提供している。保温食器を使用し、温かい食事を提供している。食事時は、見守り支援を行い、職員は後で食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューを活かしている。水分摂取等チェック表を用いて水分量など計算している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員とともに居室にて口腔ケアを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつはずしを心がけ支援している。排泄パターンやおむつの研修等に参加し、おむつからトイレ排泄へ向けた取り組みを行っている。	排泄の自立支援については、法人主催の「おむつ外し」研修を受講し、利用者本人に合った排泄ケアに努めている。おむつの使用枚数の分析やリハビリパンツ、パットの種類を検討し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。共用トイレは、カーテンのみで仕切られており、排泄の音や匂いの漏れ等、羞恥心やプライバシー保護の観点から改善が望まれる。	利用者用トイレのカーテンのみの仕切りについての改善及び、割れた便座をガムテープで接着し補修しており、素肌の保護のためにも取り替えが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の牛乳やR-1ドリンクを取り入れている、入浴時等にお腹のマッサージを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は予定日を決めているが本人の希望があればその都度変更を行っている。	入浴を楽しむことができる支援については、同性介助を基本とし、週2~3回、主に午前シャワー浴を行っており、朝一番に希望する利用者もいる。入浴剤を使い湯船で温まる利用者や好きな民謡を聞きながらゆったりと入浴する利用者もいる。浴室には、畳ベッドが置かれ、着替えや整容を行なっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置や照明、空調等配慮している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと薬一覧表を準備し、職員がいつでも確認できるようにしている。	服薬支援については、看護師管理の元で飲み忘れや誤薬を無くすため、薬の投与職員を決めて行なっている。薬剤の一包化を行い薬包紙に名前を印字したり、利用者が飲みやすいよう錠剤を顆粒へ変更している。薬は箱に入れ、詰め所に保管し、利用者毎の服薬ファイルに処方せん等も整理している。服薬後の利用者の様子を観察し、副作用の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来ることや、できそうなことを情報収集し取り組み声かけ行っている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などの外出とは別に家族との外出が出来る様に家族声かけしている。	日常的な外出支援については、法人敷地の「かりゆしの庭」は、手入れが行き届き、桜やニンニクカズラ等、花木が咲いている中、職員と散歩を行う利用者もいる。涼しい季節には、東屋でのお茶会や散歩がてら法人施設の駐車場まで出かけ、ベンチでのんびり海を眺める利用者もいる。毎週、家族と外出する利用者や車いすの利用者は、玄関先に出て外気浴で気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本おこずかい以外は家族管理している現状、おこずかいで日用品の買い物支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月 6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なかなか出来ていない状況。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様がくつろげるような環境整備を心がけている。廊下に季節がわかるように壁掛け飾りなどを設置している。	居心地のよい共用空間づくりについては、季節感のある生け花や、居間にソファが3か所とテーブルが設置され、台所側のテーブルでは、手伝いや調理の様子を見ながら過ごせるようになっている。水槽で飼っている観賞用の金魚は、利用者が世話をしている。居間は全面ガラス張り、庭がそのまま窓の景色となって見下せる状況である。寛いでいる利用者の様子を外部から保護する配慮が望まれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファを配置し、入居様が過ごせるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス等は備え付けだが、そのほかの物に関しては自由に持参してもらっている。	居心地よく過ごせる居室の配慮については、事業所設備として、洗面台やベッド、エアコン、木目調タンス等を備えている。利用者は、「モダンガール」を思わせる本人の写真や、家族写真、カレンダー、テレビ、CDラジカセ、趣味の編み物セット等、使い慣れた物を持ち込んでいる。居室担当者は、掃除や居室のレイアウト等、利用者が本人らしく過ごせるよう配慮し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に入居者様、家族、職員間の情報共有を行い安全に過ごせるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : 医療法人 おもと会 グループホーム さくら

作成日 : 平成 29 年 12 月 18 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	43	利用者用のトイレのカーテンのみの仕切りについての改善及び便座の補修	利用者が安心して使えるように工夫を行なう	カーテンをマグネットで止められるようなものへ変更行なう。便座は取り替え行なう。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。